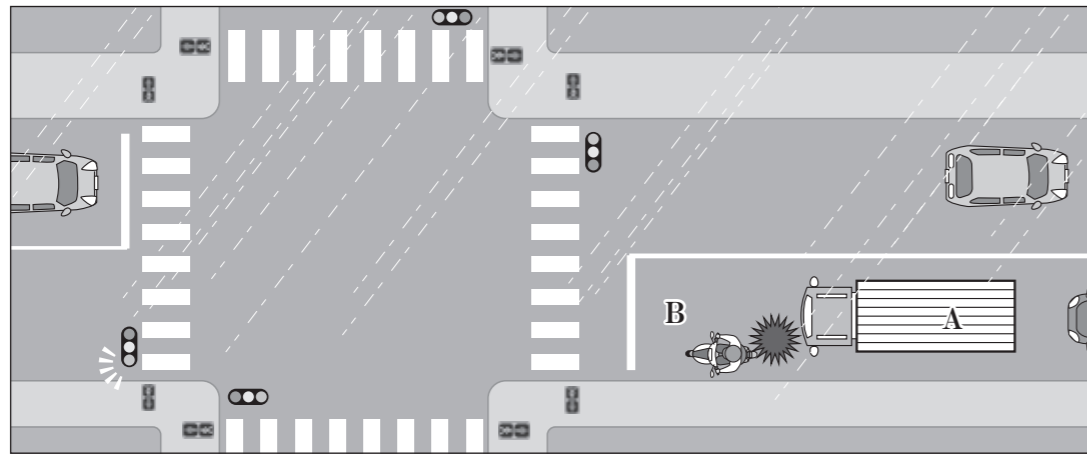


職場における交通安全指導

Part 107

交差点を直進中、左前方のバイクに追突



事故の概要

●発生日時

日時：平成24年12月某日 午後5時頃
天候：雨

●道路状況

片側一車線の交差点付近

●事故の当事者

運転者A（大型貨物車）：34歳、男性
被害者B（自動二輪車）：45歳、女性

●被害状況

A：前部バンパー左側微損
B：重傷（全身打撲、左上腕骨折）

事故状況

横浜市内の運送会社に勤務して8年目のAは、大型トラックの乗務経験は15年と経験が豊富で、過去事故歴のない模範的なドライバーである。この日は、横浜市内の倉庫で衛生用品類を積み込み東北方面へ配送する業務であった。

予定時刻どおり東北自動車道に入ったものの、事故渋滞に巻き込まれ、大幅に遅れてインターチェンジを降りた。時刻は午後5時と辺りは暗くなり雨も降っていた。

今までにない大幅な遅れのため、いつもは平常

心で運転しているAにもさすがに焦りの気持ちが出ていた。当該道路は片側一車線の市道、交差点まで40m付近に差し掛かった頃、信号が赤から青に変わったため、アクセルを踏み込んだ瞬間、左前部に「ガツン」と衝撃音が聞こえた。視線を左側に向けるとバイクが押し出されて転倒、慌ててブレーキを踏みぎりぎりのところでBの轢過を防いだ。Aにとっては、何故バイクが目の前に居るのか全く判らなかった。Bは自宅への帰宅途中、交差点が赤だったため減速したその時、後方から大型トラックに追突され転倒し、全身打撲、左上腕骨折の重傷を負った。

事故の原因

事故当時は、12月の午後5時過ぎのため、辺りはすっかり日が落ちていた。地方の片側一車線の市道、街灯も少なく天候も雨のため、暗く視界は悪い状態だった。納品先に遅れる旨の連絡は入れたものの、大幅な遅れが出ており、運転者の心理として焦りの気持ちが運転にでていた可能性は高い。インターチェンジを降りてからは、渋滞はなくスムーズに流れていたため、ここで少しでも早く到着しようという気持ちが働いたのかもしれない、また約40m前方の交差点の信号が赤から青にタイミングよく変わったことも、急ぐ気持ちを助

長させた可能性がある。Aは、周りへの注意を怠り、左前方を走行していたバイクに気が付かず追突し、Bを転倒させてしまった。焦りや急ぎの心理による前方不注視による事故と言える。Bにとっては、後方からの突然の追突で身構える事なくバランスをくずし、転倒を余儀なくされた。

安全指導

1. 「急ぎの心理」に注意

「急ぎの心理」は、誰でも潜在的に持っているものです。しかし、Aは、プロ意識が高く、「絶対に事故は起こさない」と常日ごろから意識して運転し、「急ぎの心理」も出ないように運転してきたつもりでした。ところが、信号が赤から青に変わったちょっとしたきっかけで「急ぎの心理」が顔をだし、その瞬間、前方のバイクの見落としが、追突事故に繋がってしまったと言えます。

「急ぎの心理」には、①最初から急ぐケース②予定が狂って途中から急ぐケース③運転中に発生する事象によって急ぐケースが上げられます。

今回は、高速道路の渋滞により予定が狂った②のケースと前方の信号が赤から青に変わった瞬間の③のケースが重なったことにより、Aは急いってしまったものと思われます。

特に突発的な「急ぎの心理」は、急ぐ必要がない時でも何かのきっかけで起こり得るため、十分な注意が必要です。

常日ごろから、突発的な「急ぎの心理」を念頭に置き、自分を客観的に見つめる事ができるよう習慣づける必要があります。

2. 安全運転義務違反

交通事故原因で一番多いのが「安全運転義務違反」です。安全運転義務違反は以下の7つの項目に分かれます。

①操作不適

ペダルの踏み間違いや、ハンドル操作ミスによる事故

②前方不注意

ぼんやりや、注意散漫による漫然運転が原因の事故

③動静不注視

相手車両の存在をあらかじめ認識していたが、危険はないものと、注視を怠っておきた事故

④安全不確認

安全確認を怠り、車両の見落とし、発見の遅れによる事故

⑤安全速度違反

速度規制に違反しないものの、見通しの悪い場所で徐行を怠ったり、速度が出過ぎたことによる事故

⑥予測不適

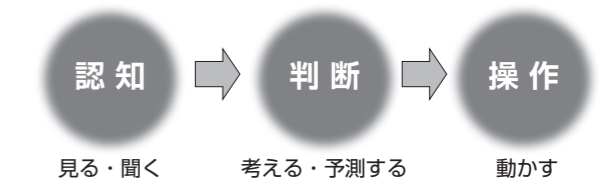
勝手な思い込み、「かもしれない運転」など相手の動きの予測を誤ったことによる事故

⑦その他

今回のケースは、④の十分な安全確認を怠り、相手車両を見落とし、発見が遅れた結果による「安全不確認」による事故といえます。

交通事故の原因は、ほぼ上記7つに分類されることをしっかり理解していただき、日々の運転に反映してください。

3. 運転行動のサイクル



運転行動は、「認知・判断・操作」で成り立っているといわれます。まず、前方の状況を「認知」し、その状況に対し考えたり予測したりする。これが「判断」です。この「判断」に基づき「操作」する。この一連の運転行動が的確に行われていれば事故を起こす危険性は低いといえますが、どこかでミスが生じると事故を起こす危険性が大きくなります。

一般的に認知ミスが74%、判断ミス18%、操作ミス8%と認知ミス（見落とし）による事故が高い比率を占めています。周りの状況を把握することは事故の防止に繋がります。

4. 注意力の分散

本来であれば、バイクのテールランプなどで車両の存在を確認できたはずが、「急ぎの心理」などにより、注意すべきポイントが信号機に向いた為、前方のBを見落とした可能性が高いと言えます。無事故15年のドライバーであっても、一瞬の出来事で事故に繋がることもあるので、常に細心の注意を怠らず、また注意すべきポイントが偏ることが無いよう広範囲に目を向け安全運転を行ってください。